

病院の 実力

～千葉編 16

肺がん

病気に医療機関ごとの治療実績を伝える「病院の実力」。今回、取り上げる「肺がん」は、がん種別の死者数で胃がんを抜き、日本人のがん死でも多い。治療の難しいがんの代表だ。

たばこはがんの原因の3分の1を占めると言われるが、肺がんでは特に関係が深いとされる。日本の成人男性の喫煙率は約40%と欧米に比べて極めて高い。予防には、まず禁煙だ。

治療には早期発見が重要なことから、胸のエックス線検査や、たんを調べる喀痰細胞診による肺がん検診が、40歳以上を対象に行われている。より早期のがんを見つければ、コンピュータ断層撮影法(CT)を取り入れている人間ドックなどもある。

表の治療件数(2007)

病院の実力「肺がん」

医療機関別2007年治療実績

(読売新聞調べ)

医療機関名	手術件数	平均入院日数		定位放射線治療件数
		うち胸腔鏡	平均入院日数	
	295	38	9	0
	104	70	20	2
	95	90	13	5
	65	48	18	0
	64	42	21	0
	54	15	13.9	0
	50	35	15	0
	47	6	19.8	10
	30	7	21	—
	30	22	12	0
	25	18	10	5
	23	18	11~14	0
	22	22	29.4	0
	21	15	7	0
千葉徳洲会	19	16	10	0
	15	3	9	0
	12	1	24.4	0
	10	4	14	0
	10	8	12	0
	85	23	14	15
	52	13	17.2	25
	49	14	20	0
	43	33	14	0
	34	25	31.2	0
	22	4	11	8
	16	10	12	0
	132	80	約12	6
	118	19	18	0
	105	75	10	3
	59	31	16	—
	57	7	17	24
	56	12	18	7
	28	22	6	0
	20	1	約10	0
	19	0	13	0
	16	0	12	0
	12	11	14	0
	12	0	12.5	0

「国・」は国立病院機構、「セ」はセンター。「—」は未回答または不明

*全国の調査結果は「くらし健康面」に掲載しています。次回の地域版掲載は4月5日「乳がん」の予定です。

病院間で入院日数に違い

年実績)は、「手術」と、そのうち内視鏡を使って治療する「胸腔鏡手術」、ピンポイントでがんを焼く「定位放射線治療」の件数を示した。

また地域版では手術に伴う平均入院期間(手術前の検査含む)も掲載した。手術の技量が高く出血などのトラブルが少なければ患者の回復は早く、一般に入院日数が短い。アンケートに回答した約400施設の平均入院日数は14・6日で、最長51・7日から最短5・9日まで、

病院により大きな差があった。

都市部に比べ地方では、入院期間が長くなる傾向が

見られた。回復に時間がかかる高齢患者や、他の病気を併せ持っている患者の割合にも影響されるため単純な比較はできないが、参考にしてほしい。